

# 第1回 高島地域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会

平成25年8月23日(金)  
高島市 新旭公民館

# 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会とは

## ～協議会の活動概要～

- 河川、湖沼、水路等で、万一はん濫が生じた場合にも、したたかに対応し、はん濫被害を最小化できる地域社会づくりを目指す。
- 市・県・国が協働し、必要な調査検討を行い、学識経験者や委員からの助言のもと、地域特性に応じた意味のある適応策を実施する。
- 検討項目は各市町担当者からの提案課題により、実務に即したものとする。

## 他圏域の設置状況

琵琶湖湖南流域	平成16年08月～	大津市・草津市・守山市・栗東市・野洲市
湖北圏域	平成19年06月～	長浜市・米原市・(湖北町・虎姫町・高月町・木ノ本町・余呉町・西浅井町)
東近江圏域	平成20年11月～	近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町・(安土町)
甲賀圏域	平成23年3月～	甲賀市・湖南市
高島地域	平成25年8月～	高島市

# 協議会の構成

**協議会** ……副市長、学識経験者、行政委員

**担当者会議** ……関係機関担当者

**ワーキンググループ** ……関係機関担当者＋関係者  
(検討課題に応じたWG)

(行政機関)  
防災情報WG

避難勧告等  
判断基準



(住民＋行政)  
水害に強い  
地域づくり計画  
WG

(住民＋行政)  
土砂災害に強い  
地域づくり計画  
WG

みずから避難する  
仕組みの構築



# 協議会で議論する課題の設定

## 課題① 市長が発表する避難勧告等における 明確な基準を策定したい。

### 1-1. 地域防災計画に避難勧告等の判断基準を明記

- 適切なタイミングで、適当な対象地域に発令できるよう基準を定める。
- 関係機関の準備態勢を整えるとともに、住民の迅速で円滑な避難を実現する。

### 1-2. 避難勧告等判断マニュアル(内規)の精度向上

- 避難勧告等の判断について、防災担当者が市長に意見具申するにあたって、その根拠となる資料の精度を向上させ、実用的なものとする。

# 協議会で議論する課題の設定

課題② ベテラン職員や地元住民の経験や知恵を定量的な指標として整理したい。

2-1. 市や地元が注視している場所に簡易量水標等を設置して定量化

- 誰が見ても同じ判断ができるような指標の設置
- 水害履歴調査等により地域の知恵のデータベース化

2-2. 雨量による避難判断基準など、地域の災害特性に応じた基準の検討

- 地域ごとの災害リスクに応じた「地区別避難判断基準」の整理

# 協議会で議論する課題の設定

## 課題③ 地域の水害・土砂災害に 対する意識が低下している。

- 災害リスクの高い地区に対して出前講座等を足掛かりに、地区の災害に対する意識を高める取り組みを行う。

## 課題④ 各種対策を検討するための 体系的な基礎資料が必要。

- 県は、必要な資料を作成し、協議会の取り組みが円滑なものとなるよう支援を行う。

# 検討の進め方

これらの課題を検討するため、以下のワーキンググループにおいて検討を実施する。

## 防災情報WG

## 水害に強い地域づくりWG

## 土砂災害に強い地域づくりWG

# (1)防災情報WGにおける検討



# (1) 防災情報WGにおける検討

## 目的

避難勧告等は、災害対策基本法に基づき市長の判断により市民に避難を呼びかけるものである。

迅速で円滑な避難を実現するため、避難勧告等の基準を検討する。

## 現状と背景

現行の地域防災計画において、避難勧告等に関する発表基準は記載されている。

しかし、記載内容の大半は定性的な表現にとどまっており、発表を判断する者の経験等に依存する傾向があり、判断する者の負担が増えることが想定されるとともに、発表の判断が遅れる可能性も考えられる。

一方、防災担当課において、避難勧告マニュアルが整理されているが、実用には至っていない。今後、協議会において必要な検証を行い、精度を向上させる必要がある。

# (1) 防災情報WGにおける検討

## 地域防災計画への避難勧告基準の記載案の提案

- 資料4にて提案。
- 迅速で円滑な避難を実現するため、市の防災の基本計画である地域防災計画に避難勧告基準を記載し、周知を図る。
- 地域防災計画改定のタイミングで防災会議に諮り、決定する。

## 避難勧告マニュアルの検討

- 高島市では、防災課における内規マニュアル的な位置づけの「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」が作成されているが、実務的な精度検証がなされておらず、実用に至っていない。
- これについて、地域防災計画に記載する避難勧告基準と整合を図りながら、より実用的なものになるよう検証を行い、精度を向上させる。

資料4にて説明します。

## (2) 水害・土砂災害に強い 地域づくりWGにおける検討

# (3) 水害・土砂災害に強い地域づくりWGの設置

## 目的

災害リスクの高い地区において、住民主導型の具体的な避難行動計画を作るなど、水害・土砂災害に強い地域づくりのための減災対策の検討を行う。

## 現状と背景

近年、大きな災害を受けていない中、住民の水害・土砂災害に備える意識は低くなっている。

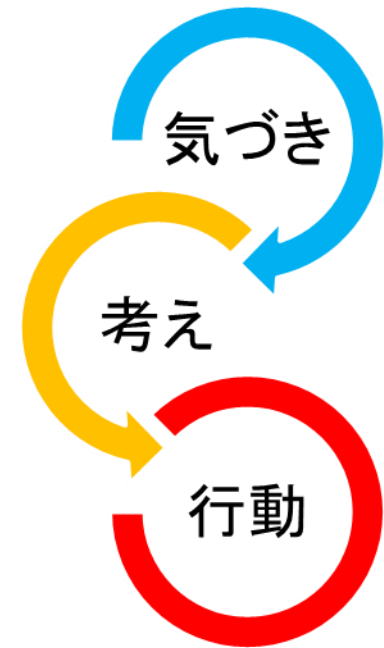
一方、全国的に激甚な災害が多発する中で、身の周りの災害リスクについて考える機会は増えており、行政は、これらの住民ニーズを呼び起こし、住民主導による情報伝達体制の整備や避難行動計画の検討を支援することが重要となっている。

### (3) 水害・土砂災害に強い地域づくりWGの設置

#### 水害・土砂災害に強い地域づくりWGの設置

水害リスクの高い地区等において、モデル地区を選定し、避難行動計画等の作成を支援する。

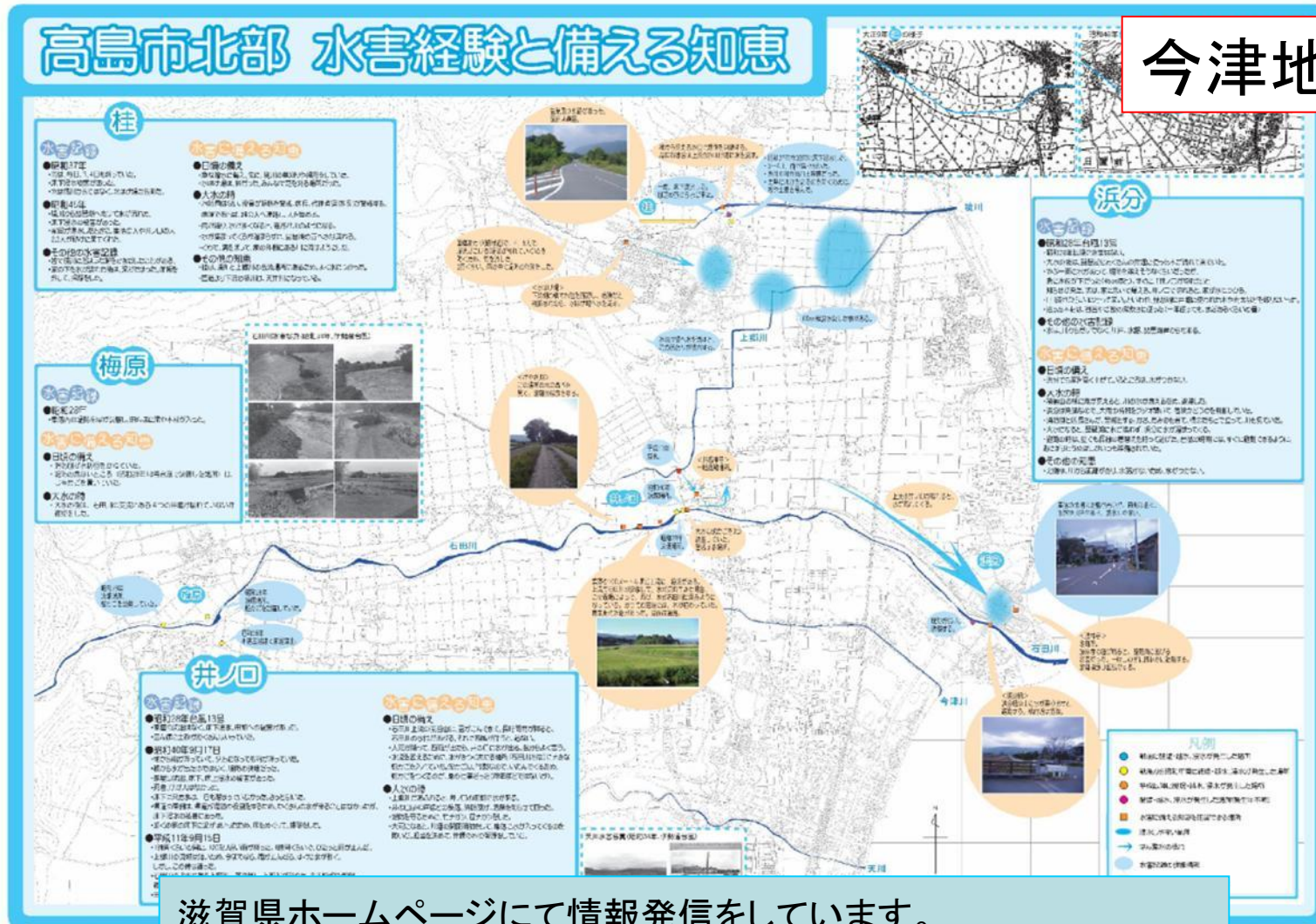
- モデル地区の選定
- 水害経験者への聞き取り  
出前講座・図上演習の実施
- 課題に対する解決方法の検討
- 避難計画の検討、避難訓練の実施
  
- 住民主導による  
『〇〇地区 自主防災会 避難計画』等の策定支援



# 水害経験者などの聞き取り調査

## 高島市北部 水害経験と備える知恵

今津地区



滋賀県ホームページにて情報発信をしています。  
 「水害情報発信 - 水害の記録と記憶 -」  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/hanran>



# 水害経験者などの聞き取り調査

## 朽木市場地区

昭和28年(1953年)台風13号  
朽木市場の水害経験マップ  
(澤本長久さんの体験)

### ②盛土崩壊

取付け道路の盛土部分にたまった水が決壊。一気にあふれた水が集落に押し寄せた。集落の両側を回り込んで、水が流れていった。



水の流れた跡が田に残っています。

### ③3軒流失

押し寄せた水の勢いで、3軒の民家が流失。集落内にも濁流が押し寄せ、多くの家が床上浸水した。



### 霞堤

かつては県道まで浸かることもままあった。今でも300mmくらいの雨があると冠水している。

### ①「切れと」決壊

「切れと」からあふれた水は、高台にある小学校への取付け道路の盛土に阻まれて、上流側でダムのように溜まった。

### 切れと

何度もこの場所で決壊しており、この場所を「きれと」と呼んでいる。ほこらが建てられ、水の神様をおまつりしている。場所は上流の岩瀬区だが、管理は市場区が行っている。

当時の安曇川は、今より幅が狭く、今の3分の2ほどだったのではないかと。

安曇川の流れが堤防に当たる場所が

船橋は昭和24年に被災しており、修復されていたが、この台風で流失した。



### その時！水防活動と避難行動

「竹流し」などの水防工法を行っていたが、堤防の決壊が避けられないと見るや、サイレンを鳴らし、住民は高台の学校へ避難した。逃げ遅れた人もいたが、木につかまって難を逃れた。亡くなった人はいなかった。このころは、しょっちゅう水害を受けており、たびたび避難していて、すぐに逃げた。

滋賀県ホームページ「水害情報発信 - 水害の記録と記憶 -」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/hanran/>



7/23朽木地区出前講座にて配布

# 出前講座の実施

- 平成24年10月  
新庄地区(安曇川左岸)  
自主防災組織主催の水害避難訓練にて。
- 平成25年7月  
朽木てんぐクラブ  
小学生対象。川遊びとともに  
洪水の時の避難について学習。
- 平成25年9月(予定)  
市場地区(安曇川上流)  
高島市総合防災訓練に合わせて  
水害避難訓練を実施。





# モデル地区の選定

- モデル地区を選定し、ワーキンググループを実施する。

## モデル地区の選定

- 出前講座（防災意識の高い人が役員にいる）  
水害経験者の聞き取り（過去に災害を受けたことがある）  
を足掛かりに地区に入っていく
- リスクの高い地区等へのアプローチ



### ナビゲーション

きずな街道-最新情報  
三雲学区の皆さまへ  
平成25年度事業計画  
広報紙「きずな街道」  
市民情報トピックス  
部会活動紹介  
区活動紹介  
活動紹介一覧

### きずな街道



歴史街道『東海道』を  
心でつなぐまちづくり  
写真：大沙川トンネル  
(吉永)

三雲学区には、三雲城跡  
や妙感寺、常照時など歴史  
資源をはじめ、西部には平  
松の「美し松」の目生地、東  
部には不動産の滝などの豊  
かな自然資源がたくさんあ  
ります。この恵まれた自然  
環境を生かし住民どうしの  
心が通いあう地域づくりの  
ため、新たな視点で多くの  
方に参加願えるようにと情  
報発信しています。  
市民の皆様からの投稿(情  
報)を掲載します。  
景観・グルメ・旅・歴史文  
化・地域宝物等身近な情報  
をお寄せ願います。  
投稿先メールアドレス：  
koujib-kmk@city.shiga-  
konan.lg.jp

[部会活動紹介](#) > [活動紹介一覧](#) >

## 「三雲区自主防災組織」立ち上げ準備

2013/06/18 7:38 に 三雲学区まち協 が投稿 [ 2013/06/18 7:42 に更新しました ]

各区トピックス

平成 25 年 06 月 14 日

## 「三雲区自主防災組織」立ち上げ準備

投稿部署 三雲区

三雲区では昨年(平成 24 年)、荒川河川氾濫危機の経験を期に、三雲区における『防災・震災』を住民視線で組織的な活動を展開すべく『三雲区自主防災組織』の立ち上げを昨年度提言し、今年度(平成 25 年度)より「準備チーム」を 4 月度より立ち上げました。

みんなで助け合える地域づくり、災害に強い街づくりを目指し、三雲区自治会長会組織でメンバー編成を行い、運用実現に向けて行政機関のご支援をいただきながら、広く多くの方々よりご意見をいただき原案策定を行い、現実的な具体的な防災組織及び運用を目指して参ります。

準備チームの活動は平成 25 年 12 月まで行い、平成 26 年 3 月頃には防災訓練を開催予定です。



# 簡易量水標の設置

## ①新庄区

•(安曇川左岸 常安橋)



## ②山神橋

(高島市野尻)



## ③本庄橋

(高島市南船木)



地元や水防パトロールの注目ポイントに設置。  
近傍水位局との関連性や、雨量との相関関係、流下能力不足箇所との  
関係を整理して活用に向けた検討を進める。

# まるごとまちごとハザードマップ

他圏域での事例

- ・ 浸水深や避難所等、洪水に関する情報を洪水関連標識として「まちなか」に表示する
- ・ 日常から洪水への意識を高めるとともに浸水深等の知識の普及を図る
- ・ 安全かつスムーズな避難行動に繋げる



## まち全体 ハザードマップに

### 水害時 ↑ここままで浸水一目瞭然

街頭の電柱や掲示板に、水害時に浸水する高さを示す「まるごとハザードマップ」事業に本年度、米原市村居田地区が滋賀県内でも初めて取り組む。豪雨や洪水で地区がどれだけ被害を受けるかをイメージしやすくし、避難などに役立つ。

県や市町、国土交通省などがつくる「水害に強い地域づくり協議会」は、水害リスクが高い地区に減災計画作りを勧めている。県内4地区が策定中で、村居田地区の「まるごとハザードマップ」は計画の一環。約120世帯400人が暮らす村居田地区は姉川左岸にあり、1959年の伊勢湾台風で床下浸水の被害が出たという。同地区で7日あった協議では、設置費用を出す県から住民に、100年に一度の雨で浸水が想定される高さを示した板を6カ所ほどに掲示することが提案された。その後の現地視察で、地区内の電柱に、浸水が想定される2・5mや3mの高さに板（横約30cm、縦約50cm）を仮掲示した。民家の1階の軒先と同じ位置の板に、住民は「かなり高いと驚いていた。」「一番深く浸水する場所にもつけてはどうか」「50年に一度のケースも合わせて表示した方が比較しやすい」との意見が出された。

区長の山中義昭さん（63）は「実際に地区がどのように浸水してはいけませんが、東日本大震災や最近の豪雨のように想定を上回る水害にも備えたい」と話した。（相見昌範）

米原・村居田地区 電柱などに水位表示板

原市村居田地区が滋賀県内でも初めて取り組む。豪雨や洪水で地区がどれだけ被害を受けるかをイメージしやすくし、避難などに役立つ。

約120世帯400人が暮らす村居田地区は姉川左岸にあり、1959年の伊勢湾台風で床下浸水の被害が出たという。同地区で7日あった協議では、設置費用を出す県から住民に、100年に一度の雨で浸水が想定される高さを示した板を6カ所ほどに掲示することが提案された。その後の現地視察で、地区内の電柱に、浸水が想定される2・5mや3mの高さに板（横約30cm、縦約50cm）を仮掲示した。民家の1階の軒先と同じ位置の板に、住民は「かなり高いと驚いていた。」「一番深く浸水する場所にもつけてはどうか」「50年に一度のケースも合わせて表示した方が比較しやすい」との意見が出された。

区長の山中義昭さん（63）は「実際に地区がどのように浸水してはいけませんが、東日本大震災や最近の豪雨のように想定を上回る水害にも備えたい」と話した。（相見昌範）

# モデル地区の選定 (土砂災害WG)

- モデル地区を選定し、ワーキンググループを実施する。

## モデル地区の選定

- ▶ 土砂災害警戒区域・特別警戒区域の指定  
対策事業の実施箇所など  
を足掛かりに地区に入っていく
- ▶ リスクの高い地区等へのアプローチ



# マイ防災マップ・避難計画の作成

(土砂災害WG) 他圏域での事例

- ・ ハザードマップを元に「まちあるき」を実施し、避難時に危険な場所などを確認する
- ・ まちあるきの結果を反映させてマイ防災マップ・避難計画を作成する
- ・ マイ防災マップ・避難計画に基づいて避難訓練を実施し、内容の検証を行う

